

### 第3学年社会科（公民的分野）学習指導案

- 1 単元名 政府の経済活動
- 国民の生活と福祉を向上させるために、国は消費税の税率を上げるべき、是か否か -

- 2 指導観

- 単元観

本単元は、「国民の生活と福祉を向上させるために、国は消費税の税率を上げるべき、是か否か」という論争問題について、生徒が判断し、他の生徒に提案する学習活動を通して、生徒に「国の経済活動」に関する知識を構造的に把握させ、「国がこれから果たすべき経済的な役割」について、価値判断できるようにさせることをねらいとしている。具体的には、国の財政のはたらきを構造的に把握させること、少子高齢化、人口の減少、景気の低迷等の社会の状況と関連させて、国の財政の課題を見出させること、国の財政のはたらきと社会状況を踏まえて、これからの財政の在り方を考えさせることを主な学習内容としている。

現在、日本では、国だけで542兆円の公債残高を抱え、少子高齢社会の進行に伴い、社会保障費の負担が急増するといった深刻な課題に対して、大胆な財政改革を行うことが求められている。その中で政府は、「基本方針2006（骨太の方針）」を平成18年7月に閣議決定し、経済成長を維持しつつ歳出削減を徹底しながら、歳出・歳入一体改革を進めることを宣言している。しかし、財政改革は増税、歳出削減、特別会計の整理統合・一般会計化など、どの内容についても、様々な立場からの利害が絡み合い、激しく賛否が対立している。

そのような中、これからの国の財政の在り方について、批判的討議を通じて合意を形成させることは、主権者である国民として、様々な立場の意見を尊重しながら合理的に価値判断を行う資質・能力を養う上で、意義深いことと考える。

実態観（略）

- 指導観

本単元の指導にあたっては、生徒に国の財政のはたらきを踏まえて、国の経済活動の在り方について、合理的な価値判断ができるようにさせるために、「国民の生活と福祉を向上させるために、国は消費税の税率を上げるべきか、否か」について、生徒に批判的討議を行わせる。なお、本単元においては、国の改革の動向を踏まえ、財政として扱う範囲を教科書に提示されている一般会計と財政投融资の103兆円だけに限定せず、特別会計を含んだ290兆円とし、指導を行っていく。

生徒は「つかむ」段階で、国の公債残高、日本の年齢別人口構成、社会保障費の変化、予算の無駄遣いの事例を教師から提示されることによって、国の財政が自分の生活に直接影響を与えるものであることを実感するとともに、財政再建の必要性を実感し、消費税増税にかかわる論争問題を把握する。

次に「追究する」段階では、思考ガイダンス1の指導を受けながら、生徒に「消費税を上げるか上げないかが、なぜ、論争問題になっているのか」について、小集団で追究させる。それによって、生徒に租税の意義と役割、国民の生活と福祉の向上のために予算が執行されていることを理解させる。具体的には、まず、「租税とは何だろう」「財政にはどのようなはたらきがあるのか」等を課題とし、生徒に国の歳入・歳出の内容とそのはたらき、財政の現状を、教師が提示した資料を基に、把握させていく。そして、国の財政のはたらきと現状について見出した事実を基に、「消費税を上げるか、上げないかが、なぜ、論争問題になっているのか」について、仮説を検証し、消費税の変化と財政の状況の変化、企業・家計に対する影響の因果を把握していく。仮説を検証させる際には、日本の消費税率は諸外国に比べて低いことや、国には一般会計とは別に212兆円の予算があり、207兆円の積立金もあることを教師が提示することで生徒の考えに揺さぶりをかけ、把握する因果をより多面的・多角的なものにしていく。

さらに、「解決する」段階では、思考ガイダンス2の指導を受けながら、「国民の生活と福祉を向上させるために、国は消費税の税率を上げるべきか、否か」について生徒1人ひとりに価値判断させる。そして、班内で考察ファシリテーターの生徒を中心に、生徒相互に判断の根拠について批判的討議をさせ、生徒1人ひとりに合理的な価値判断の方法を把握させる。その後、「税率を上げるべき」と判断する立場と、「税率を上げるべきでない」と判断する立場に分かれ全体でディベートを行わせる。ディベートの後には、相互に留保条件の提示を行わせ、合意形成のための提案を行わせる。最後に、討議での論争を踏まえて、生徒一人ひとりに論争問題について価値判断させ、判断の根拠を説明させることにより、国の財政の在り方について主体的に規範的知識を習得させる。

### 3 単元目標

- 国が果たしている経済的な役割に関心をもち、消費税に関する論争問題について意欲的に討議しながら、社会の状況に応じた財政の在り方について、自ら考えようとする態度を育てる。【関心・意欲・態度】
- 国の財政のはたらきを踏まえて、消費税にかかわる財政改革の在り方について合理的に判断することができるようにする。【思考・判断】
- 自分の判断を、因果を踏まえて説明するとともに、他者の判断に対して、効果的に批判や反論をすることができるようにする。【技能・表現】
- 社会資本の整備、社会保障の充実、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解することができるようにする。【知識・理解】

### 4 単元指導計画（13時間）

段階	生徒の学習活動及び学習内容	教師の支援及び評価	配時
つかむ	<p>1 国の財政の現状の説明を聞き、消費税増税にかかわる論争問題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の公債残高の状況</li> <li>・日本の年齢別人口構成</li> <li>・社会保障費の変化</li> <li>・予算の無駄遣い</li> </ul> <p>「消費税の税率を上げるべきか、否か」についてのディベートを行い、合理的な結論を出そう</p>	<p>10年後の国の財政の状況を未来予測し、具体的画像や動画を活用し、生徒の生活に結びつけて説明をする。</p> <p>国の財政のはたらきに関心をもち、初発の判断を学習プリントに記述することができる。【関心・意欲・態度】</p>	1
追究する	<p>1 租税の種類、国の税収の規模について小グループで調べ、相関図にまとめる。 【思考ガイダンス1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・租税の種類</li> <li>・国の財政における税収の規模</li> <li>・事実判断の道筋と方法</li> </ul> <p>2 各班が発表した相関図を基に、租税の種類と役割についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・租税の役割</li> </ul>	<p>「説明カード」の記入方法及び活用方法を説明する。 生徒の記述の状況を見ながら、生徒に分類の方法についてサンプルを用いて説明し、必要に応じて事実判断の方法を個別に指導していく。【思考ガイダンス1】</p> <p>基本的な内容に関する画像や動画を提示し、課題とされている内容についてのイメージを生徒が持つことができるようにする。 租税の種類と役割を事実に基づいて「説明カード」にまとめ、「説明カード」を分類した相関図を作成できる。 【思考・判断】【知識・理解】</p>	6 (2)
	<p>3 国の歳出のはたらきと特徴について小グループで調べ、相関図にまとめる。 【思考ガイダンス1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の歳出の内容と特徴</li> <li>・国の歳出の現状と問題点</li> </ul> <p>4 各班が発表した相関図を基に、歳出の内容とはたらきについてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の歳出のはたらき</li> </ul>	<p>生徒に相関把握の方法についてサンプルを用いて説明する。 【思考ガイダンス1】</p> <p>歳出の内容を事実に基づいてまとめそれぞれの事業が社会に及ぼす影響を表した相関図を作成できる。 【思考・判断】【知識・理解】</p>	(2)
	<p>5 因果説明シートを活用し、「消費税率を上げるか、上げないかが、なぜ、論争問題になっているのか」について、仮説を検証し、「結論」の根拠となる「データ」と「理由付け」を説明する因果図を作成する。 【思考ガイダンス1】</p>	<p>合理的な因果把握の方法についてサンプルを用いて解説する。 生徒が把握した因果に対し、教師が「論理性」と「現実性」を満たしているかを点検する。</p>	(2)

段階	生徒の学習活動及び学習内容	教師の支援及び評価	配時
追究する	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>習熟が進んだ生徒 課題について仮説を設定し、「社会の現状と歳入」「社会の現状と歳出」「社会の現状と特別会計」の3つの側面から課題を追究し、「結論」の根拠となる「理由付け」と「データ」を「裏付け」も併せて説明した因果図を作成する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>その他の生徒 課題について仮説を設定し、「社会の現状と歳入」「社会の現状と歳出」「社会の現状と特別会計」のいずれか2つ以上の側面から因果を追究し、「結論」の根拠となる「データ」と「理由付け」を説明する因果図を作成することができる。</p> </div> </div> <p>・ 推理の道筋と方法・財政の現状と問題点</p> <p>6 論争問題の論点を基に、財政のはたらきと現状の問題点をまとめる。</p> <p>・ 国の財政のはたらきと現状の問題点</p>	<p>相関図と因果図の記述内容を基にして、教師は思考の習熟が比較的進んでいる生徒を抽出し、説明されていない視点を提示することによって、因果を多面的・多角的に捉え直させる。</p> <p>財政のはたらきについて意欲的に追究し、「論理性」と「現実性」を満した説明的知識を習得できた抽出生徒を、考察ファシリテーターとして選抜する。 【思考ガイダンス1】</p> <p>消費税率の変化と財政の状況の変化、企業・家計に対する影響の因果を説明した因果図を作成できる。 【思考・判断】【知識・理解】</p>	
解決する	<p>1 「価値判断シート」を活用し、「国民の生活と福祉の向上のために、消費税率を上げるべきである」という論題に対して、個人で判断し、判断の根拠を説明する因果図を作成する。 【思考ガイダンス2】</p> <p>・ 判断の合理性の3つの条件 ・ これからの国の財政の在り方</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>習熟が進んだ生徒 「国民の生活と福祉を向上させるために、消費税率を上げるべきである」と「財政を再建するために、消費税率を上げるべきである」の二つの論題について、賛成・反対の両方の立場から、「効果性」「現実性」「継続性」の条件を満した因果図を作成する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>その他の生徒 「国民の生活と福祉を向上させるために、消費税率を上げるべきである」という論題に対して、賛成・反対のいずれかの立場から、「効果性」「現実性」「継続性」の条件を満した因果図を作成させる。</p> </div> </div> <p>2 思考・判断の習熟が比較的進んだ生徒7名で「財政を再建するために、消費税率を上げるべきだ」を論題としたモデルディベートを行い、他の生徒は審判として判定をする。【思考ガイダンス2】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>肯定側の主張と根拠説明</li> <li>肯定側主張と根拠に対する質問・批判</li> <li>肯定側の説明・反論</li> <li>否定側の主張と根拠説明</li> <li>否定側主張と根拠に対する質問・批判</li> <li>否定側の説明・反論</li> <li>相互の最終説明</li> </ol> <p style="background-color: yellow; display: inline-block; padding: 2px;">・ 批判的討議の道筋の把握</p>	<p>教師が判断の根拠を合理的に説明する方法についてサンプルを用いて説明する。</p> <p>生徒全員に「効果性」「現実性」「継続性」を踏まえた内容になるよう、巡回しながら点検し、助言を行う。 【思考ガイダンス2】</p> <p>必要に応じて、「データ」「理由付け」「裏付け」について説明が必要となる質問や批判を教師が行い、生徒に議論のモデルを把握させる。最後に考察ファシリテーターの判断の根拠の「効果性」「現実性」「継続性」について、教師が良かった点や不十分な点を指摘する。 【思考ガイダンス2】</p>	<p>6 (1)</p> <p>(1)</p>

段階	生徒の学習活動及び学習内容	教師の支援及び評価	配時
本 時	<p>3 「価値判断シート」を基にして、「国民の生活と福祉の向上のために、消費税の税率を上げるべきである」を論題とした、班内5人による、考察ファシリテーターの生徒対他の班員4名の批判的討議を行う。【思考ガイダンス2】</p> <p>(1) 4人の生徒からの主張と根拠の説明 (2) 考察ファシリによる「効果性」「現実性」「継続性」が不十分な点、判断に伴うデメリットにどう対応するのかについての質問や批判 (3) 質問や批判に対する班員の生徒の説明や反論</p> <p>・合理性を高めるための3つの条件「効果性」「現実性」「継続性」の把握 ・これからの国の財政の在り方</p>	<p>教師は考察ファシリテーター同士のモデルディベートでの主張をサンプルとして、「効果性」「現実性」「継続性」それぞれを満たしている事例と満たしていない事例を、生徒に提示する。</p> <p>各班を巡回し、必要に応じて吟味を深めたり、考えを揺さぶるための事例提示や助言を行う。</p> <p>「効果性」「現実性」「継続性」が高められた生徒の事例を挙げ、そのよい点を全体の前で説明する。【思考ガイダンス2】</p> <p>他者の批判や助言を基に、自分の考えの合理性を高めたり、多面性を広げたりすることができる。【思考・判断】</p>	(1)
解 決 す る	<p>4 肯定と否定に分かれディベートを行う準備をする。</p> <p>5 「国民の生活と福祉の向上のために、消費税の税率を上げるべきである」を論題とした、全体ディベートを行う。</p> <p>(1) 肯定側立論 (2) 否定側質疑 (3) 否定側立論 (4) 肯定側質疑 (両チーム作戦タイム) (5) 否定側第1反駁 (6) 肯定側第1反駁</p> <p>・賛否両方の主張を踏まえた合理的な規範的知識の習得</p> <p>6 相互に留保条件の提示を行い、合意形成のための提案を行う。</p> <p>・留保条件の考え方 ・これからの国の財政の在り方</p> <p>7 討議での論争を踏まえて、一人ひとりで論争問題について価値判断する。</p> <p>・賛否両方の主張を踏まえ、「財政再建」と「国民の生活と福祉の向上」両方を考慮した合理的な規範的知識の習得</p>	<p>ディベートの進め方と役割分担について確認する。</p> <p>ディベートの争点を踏まえて、留保条件の考え方を解説する。</p> <p>必要に応じて、生徒の論点を咬み合わせる支援を行い、内容が深められるようにする。</p> <p>討論のポイントを構造化して板書する。</p> <p>自分の判断を、因果を踏まえて説明するとともに、他者の判断に対して、効果的に批判や反論をすることができる。【技能・表現】</p> <p>合意形成のための合理的な留保条件を提示することができる。【思考・判断】</p> <p>最終的な判断とその根拠を発表させ、内容のよさを解説する。</p> <p>国の財政の在り方について、多面的・多角的に考察し、「財政再建」と「国民の生活と福祉の向上」両方を考慮した価値判断をすることができる。【思考・判断】</p> <p>これから国が果たすべき経済活動の役割について理解している。【知識・理解】</p>	(2)
			(1)

## 5 各段階における発問計画

つ か む 段 階	問1 皆さんが25歳になる10年後の未来は、どのような社会になっていると思うか。
	問2 資料を見て、これからの日本国民の生活と福祉を向上させるためには、何をどのようにしたらいいと思うか。

	<p>単元課題となる発問 財政を再建し，国民の生活と福祉を向上させるためにのために，消費税の税率を上げるべきと思うか，上げるべきでないと思うか。</p>
追 究 す る 段 階	<p>追究する段階を通した発問 消費税率を上げるか，上げないかが，なぜ，論争問題になっているのか。</p>
	<p>問3 消費税とはいったいどのような税なのだろう。租税とは何だろう。国の間接税や直接税にはどのようなものがあるのだろう。国の税収はどれくらいあるのだろう。累進課税とは何だろう。</p>
	<p>問4 なぜ，46兆円もの多額の税収や印紙収入があるのに，消費税を上げることが議論されているのか。</p>
	<p>問5 国の予算はどのようなことに，どれくらい使われているのだろう。足りない予算はどのようにして補われているのだろう。国の歳出によって社会にどのような影響を与えるのだろう。</p>
	<p>問6 なぜ，こんなに社会保障費や国債費の割合が多いのだろう。</p>
	<p>問7 なぜ，日本の消費税の税率は諸外国と比べて低く設定されているのだろう。</p>
	<p>問8 特別会計とは何だろう。特別会計はどれくらいの予算があるのだろう。なぜ，特別会計の予算で財政赤字が解消されないのだろう。</p>
	<p>問9 財政のはたらきと現状の問題点を踏まえて，消費税率を上げるか，上げないかが，なぜ，論争問題になっているのか説明しなさい。</p>
	解 決 す る 段 階
<p>問11 財政を再建させるために，消費税の税率を上げることに，賛成か反対か。</p>	
<p>問12 みんなが合意できる考えにするために，どのような条件を加えればよいと考えるか。</p>	
<p>問13 最終的に，国民生活と福祉を向上させていくために，どのような条件のもとで，消費税の税率をどうすべきと考えるか。</p>	

## 6 本 時 計画「解決する」段階の3 / 6

### (1) 本時の指導観

前時までには生徒は，これからの国の財政の在り方について，「国民の生活と福祉を向上させるために，消費税の税率を上げるべき」という論題に対して，賛成か反対かを判断し，その根拠を因果図にまとめている。また，考察ファシリテーター7人によるモデルディベートによって，討議の道筋を把握することができている。

本時では，思考ガイダンス2の活動として，個々の生徒が判断した根拠について，考察ファシリテーターの生徒を中心に，5人の小集団で，判断の根拠についての批判的討を行わせる。それによって，生徒が次の3つの条件を満たした根拠を主体的につくり出すことができるようになることをねらいとしている。

主張する判断の有効性を，三角ロジックのフレ-ムワ-クに沿って，因果を結びつけて説明している。 【効果性】

出典が明確で適切なデ-タに基づいて，実行可能な方法，計画，予算で判断の有効性を説明し，それを行うことによって生じる問題点に対して，必要な限定を付加している。 【現実性】

有効性が一過性のものでなく，良好な結果を維持できるものである。 【継続性】

そのために，まず，思考・判断の習熟が比較的進んだ生徒を考察ファシリテーターとして各班に配置し，5人の小集団で「国民の生活と福祉を向上させるために，消費税率を上げるべきである」を論題とした批判的討議を行わせる。

班は賛成の立場の生徒4人と考察ファシリテーター1名、また、反対の立場の生徒4人と考察ファシリテーター1名で編制し、考察ファシリテーター対4人の生徒で批判的討議を行わせ、主張の根拠の合理性を高めさせる。

批判的討議では、班員の2～4人の生徒が主張と根拠を説明するのに対して、考察ファシリテーターに「効果性」「現実性」「継続性」が不十分な点、主張の内容が不十分な点について、質問や批判を行わせる。質問や批判に対しては班員の生徒1人ひとりに説明や反論をさせる。

批判的討議の後、班員の生徒が説明や反論ができなかった部分について、考察ファシリテーターか教師が生徒に必要な情報を提供し、価値判断シートの記述を修正させるとともに、全体ディベートに向けて、説明や批判の準備を行う。

教師は討議の始めに、考察ファシリテーター同士のモデルディベートでの主張をサンプルとして、「効果性」「現実性」「継続性」それぞれを満たしている事例と満たしていない事例を生徒に提示し、合理性を満たす条件について再度、生徒に把握させる。批判的討議の際には、教師は各班を巡回して討議の内容を点検し、討議を深めたり、考えを揺さぶる補助発問を行う。

次に、批判的討議が終わった後に、考察ファシリテーター1名と考察ファシリテーター以外の生徒1名を教師が指名し、「効果性」「現実性」「継続性」が高められた主張と根拠を全体の前で説明させる。その際教師は、生徒の説明に対して、批判的討議前の内容から合理性が高められた点について全体に解説する。

最後に、生徒に本時の活動を振り返らせるとともに、次時のディベートの準備について内容を確認させる。

(2) 主眼

論題「国民の生活と福祉の向上のために、消費税の税率を上げるべき」に対して、主張とデータと理由付けを結びつけ、「効果性」「現実性」「継続性」の3つの条件を満たした判断と根拠の説明をすることができる。

(3) 準備

思考ガイダンス用パワーポイント                      価値判断シート                      討論フォーマット表  
ヘルプフラッグ                      デジタルタイマー

(4) 指導過程

過程	生徒の学習活動・学習内容	準備	教師の支援・評価	形態	配時
導入	1 批判的討議を行う目的を踏まえながら、本時のめあてを確認する。 ・合理性の3つの条件 「効果性」「現実性」「継続性」  批判的討議を行い、消費税の増税について合理的に判断できるようになる		教師と考察ファシリテーターの批判的討議において、「効果性」「現実性」「継続性」が高められた事例を例示し、批判的討議を行う目的を解説する。	全	5
展開	2 考察ファシリテーター対4人の生徒で、論題に対する判断について批判的討議を行う。 (1) 班員からの主張と根拠の説明 (2) 考察ファシリテーターからの質問・批判及び説明・反論 ・財政の在り方・合理性の3つの条件 (4) 説明や反論できなかった内容について、考察ファシリテーターからの助言を聞く。		考察ファシリテーターが質問・批判をすることができない場合は、「ヘルプフラッグ」を挙げさせ、教師が支援する。 教師が各班を巡回し、必要に応じて情報を提供したり、吟味を深めたり、考えを揺さぶるための事例提示を行う。 考察ファシリテーターが批判できない内容は、教師が批判し、必要な情報は提供する。	班	25 (9) (9)
	3 班内審議を踏まえて、判断の根拠を修正し、価値判断シートにまとめる。 4 教師から指名された、考察ファシリテーター1名とその他の生徒2名が、全体の前で、討議の過程と修正した判断と根拠を説明する。 ・多面的・多角的に考察した、今後の国の財政の在り方		生徒の説明した根拠について討議前の内容から合理性が高められた点を全体に解説する。 他者の質問や批判を基に、自分の考えの合理性を高め、多面性を広げることができる。 (思考・判断：プリント点検)	個	10 5
終末	5 本時の活動を振り返らせるとともに、次時のディベートの準備について内容を確認させる。 ・討論に必要な主張とデータ		全体ディベートに向けて、準備する内容を説明する。	全	5